

平成 18 年度学術ポータル担当者研修課題レポート

三重大学学術情報部情報図書館チーム

河谷 宗徳

柴田 佳寿江

NII 学術ポータル担当者研修にて作成をした広報資料を使い、三重大学内で実際に行った機関リポジトリの広報活動について報告をする。

(1) 発表資料の状況設定

想定した状況は、10 月開催の生物資源学部教授会にて行う説明であった。またすでに教員には機関リポジトリ構築について頭出しの説明がされており、それを受けて詳細な説明を行い、査読済み論文の提供の依頼をするためのプレゼンテーションである。

(2) 発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、及び研修発表との改訂部分

研修で行ったプレゼンテーションの内容は、下記のとおりである。

研究成果の散逸や管理等に対する教員の問題の解決策として、三重大学機関リポジトリの提案をする。機関リポジトリとは所属研究者の研究成果の貯蔵庫である。教員が図書館に研究成果を送付すればリポジトリサーバに登録がされ、Google 等を通して世界中から検索ができるようになる。ただし、著作権処理をした成果を公開するため、共著者間での著作権処理は教員にお願いをする。機関リポジトリにはアクセシビリティの向上等のメリットがあるため、ぜひ協力をお願いしたい。

上記発表に対し、講師から下記質問があった。

- ・業績DBへの提供とのことだが、全ての成果物をもっているわけではないので、業績リストが不完全になるのではないか
- ・著名な学術雑誌に投稿しているので埋もれていることはない、リポジトリのメリットは
- ・著者最終版でなければならないのか、出版社版も可の場合もあると聞くが
- ・DBへ連携とのことだが、リポジトリ登録を義務化するということか

質問を受け、次の点を改善した1枚もののリーフレットを作成し、学内向けの広報活動をすることにした。

- ・機関リポジトリと業績データベースとの関係について、新たな研究成果物に関しては機関リポジトリから業績データベースにデータ提供がされるという、データの流れを明確にした図を掲載した。

- ・とても簡単な作業をするだけで研究成果の管理、新たな成果の発信ルートを使うことができるようになるというメリットを強調して載せた。あわせて登録に関し、教員が作業のわずらわしさを感じなくするよう、「登録は簡単」「まず一報をください」というメッセージを追加した。
- ・著作権に関しては、丁寧に説明をするよう心がけた。

(3) リハプレゼンの概要（日時、場所、発表者、発表対象、参加人数 etc.）

研修後、2回機関リポジトリについて学内で広報をする機会を得た。詳細は下記のとおりである。

- ・日時：9月7日
- ・発表者：亀岡図書館長、情報リテラシー担当杉田チーフ
- ・場所：学内部局連絡会
- ・目的：学内で生産された研究論文・学位論文・報告書等を収集・蓄積・保存し、情報発信するための学術機関リポジトリの構築について説明し、協力を要請すること
- ・時間：5分

時間が5分と短かったこともあり、質疑等は起きなかった。だが、学長より「Web2.0の世界ですね」という感想が聞かれ、好感触を得た。

- ・日時：9月20日
- ・発表者：亀岡図書館長、情報リテラシー担当杉田チーフ
- ・場所：教育研究評議会
- ・目的：学内で生産された研究論文・学位論文・報告書等を収集・蓄積・保存し、情報発信するための学術機関リポジトリの構築について説明し、協力を要請すること
- ・時間：10分

前回よりも時間が長かったこともあり、質疑等もあった。また、このプレゼンを受けて各学部教授会で報告をしていただき、人文学部の教員からは質問も出たためよい広報になったと考える。

(4) リハプレゼンへの反響（アンケートをとった場合の結果、感想の声等）

教育研究評議会でのプレゼンテーションの反響としては、「国際的なものは比較的入手しやすいが、ローカルな学術情報にはかえってアクセスしにくいこともあるので、いいことだと思う」、「著者最終稿等をきちんと保管しておいてくれるのであれば、ありがたい」等の感想があり、とてもよいものであった。

また、研究者は著作権についてとても慎重な姿勢であることがわかった。具体的に得

た質問は、下記のとおりである。

- ・出版社発行学術雑誌の論文をリポジトリに載せた場合、著作権がクリアできているかどうかの判定は図書館がしてくれるのか、執筆者本人がするのか
- ・教材、画像など人物が写ったものをアップする場合、個人情報保護法に抵触する場合は教えてほしい
- ・出版社によっては投稿したら直ちに手元の著者最終稿を捨てるように言うこともある

学部説明会を行うときには明確な回答ができるよう、三重大学としてのガイドラインを作成する重要性を認識した。お茶の水女子大学で開催された研修会に職員が参加をすることができたので得た内容を参考にガイドラインを作成している。

登録に関しては、「教員はメール添付や学内便で送りだけ、登録は図書館が行う」という現在の方法について、図書館長から、先生にも図書館にも負担がかからない登録の仕組みを考えたいという説明があり、今後の検討課題となった。

また、学長からの「各学部での説明を」という言葉をいただいたことにより、11月後半から12月にかけて予定している学部での説明会に追い風となった。

(5) その他（備考、今後の予定と希望 etc.）

三重大学の機関リポジトリの運用開始を、2006年11月15日（水）に予定している。その後、学部説明会を行う予定である。日程は下記のとおりである。

11月22日（水）午後 医学部

12月13日（水）午後 人文学部、教育学部、工学部、生物資源学部

所要時間は、説明15分を予定している。